

(様式第4号)

## 上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

1 審議会名	上田市公立大学法人評価委員会 (第4回)
2 日時	平成30年12月13日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	長野大学 9号館3階 301、302 会議室
4 出席者	平井利博委員長、清水嘉子委員長職務代理者、小林久之委員、今井裕委員、鳥居希委員
5 市側出席者	柳原渉政策企画部長、鎌原英司政策企画課長、小林穰学園都市推進担当係長、倉澤達也主査
6 公開・非公開	公開・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開・非公開 (一部公開の理由: 上田市情報公開条例第13条第5号のとおり、評価委員会における審議に関する情報においては、率直な意見交換が損なわれるおそれがあるため、評価に関する審議については非公開とする)
7 傍聴者	3人 記者 0人 ※説明者として、公立大学法人長野大学関係者出席
8 会議概要作成年月日	平成30年12月27日

### 協議事項等

#### 1 開会

#### 2 報告事項

(1) 公立大学法人長野大学 平成29年度業務実績評価の反映状況について

(委員長) 大学側から説明をお願いします。

○資料に基づき、法人が説明

(委員) 経営審議会から指摘のあったロードマップは、いつまでに作成するのか。明確にしてほしい。

(法人) エビデンス資料の形で明示できるようにしたい。

(委員) それをいつまでにやるのか。3月なのか。現実的にいつなのか。

(委員長) 中期計画についても同じことが言える。具体性がなく、明言しなければ、検討と言っても、何もしていないのと同じになってしまう。

(委員) 資料1の16ページの地域連携41の評価に対する対応に書かれているなかで、いつまでに、どのようにやるかが明確になっている。こういうことではないかと思う。誰が何をやるかが明確になっている。質問ですが、審議会にロードマップを提出しますとありますが、中期計画に対しての、ロードマップで良いか。

(法人) 理事会と経営審議会でも指摘を受けている。3月の経営審議会においては中期計画のどの段階でどういう風にやるかというものを示すつもりでいる。

(委員長) ロードマップは中期計画のどのあたりなのか、明示的に示していただきたい。それを次年度、どこまで進めるかが見えないと文言で書かれても実態は伴わないので、評価しにくいと思う。到達レベルを明示していただくと、評価しやすい。検討するとしか書いていない項目が多く、何もしていないと同じように聞こえる。これをやると明示していかないと、検討するばかりでは全然意味がない。何を検討してどこに到達するか示さないと話が進まない。何を決定したとか示されていないと進捗したのか判断しにくい。是非、表現については検討していただきたい。

評価委員が出した評価のアクションに対しては、ここまで決めたとか、いつまでにこういうことをするとか、書いていただかないと評価しにくい。この段階ではエビデンスを求めているわけではないので、アクションの動きを把握しておきたいだけ。

(委員) 課題が挙がっていることをこの会議の前に学内で指摘があるような体制になっているのか。誰も指摘がないのかなというのが正直な意見です。

(法人) 評価について本学で自己評価をしたうえで、評価委員会をお願いをして、それを市から頂いて、次どうするか。各センターに指示を出し、動いてもらう部分もありますし、まとまってくると、教学の部分においては、学長、学部長会議の場面で修正を指示することになる。法人側とすると、これらを理事会でチェックをして不備があれば返していく。さらに、2つの審議会からもご意見を賜って、最終は理事会で決定し、市に報告していく。市から指摘があれば、フィードバックしていく形をとっている。

(委員) 理事会や審議会の時点では、明確なゴールが入っていないとの指摘はなかったということか。

(法人) 今回まとめたのは、評価委員会に向けて、まとめさせていただいた。次の審議会で見解を伺って、理事会で決定していき、来年度に備えていく作業を行っているところ。何をいつどういうことをして、成果が上がっているか、まとめていきたい。

ご指摘いただいたセンターの取組、いつ、どのように取り組んだということをお示ししたつもりだったが、十分に記載できず、またチェックできなかったと反省している。凡例の示し方として、全体の水準、時限を整理していくところが運営できていなかったと反省しながら、中期計画期間中にもう半分を迎えますので、どの段階に達しているか、振り返りながら、その部分を記述してもらえるようにしたい。

(委員) 大学としての評価のやり方の問題について、1つは評価が平準化している。ほとんどb評価が多かった。精査した評価委員会の方は、ばらつきが出る結果となった。

2つ目は、評価の根拠や表現が極めて不明確で曖昧。何の根拠を持ってそういう評価をされたのかということ。特にエビデンス資料をしっかりと示してほしい。表現も曖昧。端的に曖昧だと言える表現は、検討に着手したという表現。検討に着手したとは、検討したのか、していないのかわからない。

3つ目は、恐らく各部門に評価を挙げてきて、それを集約して評価委員会に挙げてきたと思う。全体を総括して評価したのかということかなり曖昧。

同じ根拠資料が8項目位あがっていたものがある。それも根拠が不明確ということと、何をを持って評価の視点にしようかと考えたのか。

これらの指摘は、委員の指摘と何か共通している気がする。今、お話しがあった対応については、了解させていただいた。

(委員) 今の対応の報告を聞きますと、そもそも教員評価はどういうものかということからやらなければいけない。そういうところからやるということは、相当時間がかかる作業なのではないでしょうか。

これから、大学院を作られていくとなると、大学全体の循環を少し良い状態にするためにも、どの大学でも教員評価しているので、それらを参考にして、地域貢献や学内の貢献など、大きな観点は決まっているので、その方法の中で、どういう内容で、どういうシステムで評価を構築していくかということなのだと思うのですが、時間をかけてやることではないと感想を持っている。学部長ではなくて、領域なり、分野なりで、そこの直属の教授が日々指導していく体制を、評価をしながら、そういう仕組みを作っていくことが重要である。スピードアップした検討を進めた方が良いと思う。

(委員) もう1点は学部再編と大学院設置について、大きな課題を持っていると思っている。大学院の設置は、後2年ですか。学部教育があつて大学院があるということだと思いますので、まずは学部再編をどのようにするのかということできるだけ早くある程度方向性を出したうえで、その上に大学院をどう持ってくるのかという話になると思う。一気にはいかないのかなと思う。その辺も大きな課題だと思います。2018年問題で学生数も確実に減ってきますので、そのことも視野に入れながら、改革をする必要があるのかなと思う。

(法人) 学部再編の概略や大学院などもどうすべきか、全体整理をしながら、市と協議をしている。

### 3. 議事

(1) 業務実績評価方法の見直し【非公開】

4 その他 特になし

5 閉会